

令和6年8月27日

No. 227

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

日立理科クラブ 授業支援研修会

7月12日(金)、仲町小学校(小泉裕子校長)を会場として行われた授業支援チームの研修会について紹介します。

日立市内の小学校には、市教育委員会からマイクロビットが配置されています。今後、プログラミング教育の一環として、マイクロビットを使った授業支援の依頼に備えることが理科クラブの大きな課題になっています。そこで、どのような授業支援ができるのか、支援を市内全体に広げられるのかを目的に今回研修しました。

授業は5年生を対象として、仲町小理科室のおじさんの河野さんを中心に、大沼小理科室のおじさん荒岡さん、仲町小の橋本教諭、柏原教諭が行いました。

今日の授業では、「全員がマイクロビットを使えるようにしよう」を目当てに設定しました。そして、マイクロビットの基本的な操作について説明した後、「ドキドキハート」や「暗くなったら点いて」、「サイコロをつくろう」などの例題を実際にプログラミングしていきました。マイクロビットを使ったじゃんけんなども楽しみました。

児童は、マイクロビットは初めての体験であり最初は戸惑いも見られましたが、スクラッチを学習していることもあり、プログラムを見れば、そのコピーを入力することはあまり抵抗を感じることなくできていたようでした。わからないことがあって助けを求めると、指導者がすぐに対応してくれることもあり安心して学習することができたようです。

授業後の感想では、児童からは、「マイクロビットは難しいと思っていたが、やってみると簡単で楽しかった。」「これからのプログラミングに生かしたい。」と述べていました。

児童が教室に戻ってからも、元茨城高専教授の柴田先生による取り組み紹介やSTEAM教育の必要性について講話を聞き、マイクロビットの可能性と教育的な効果を確認しました。

また、授業者からは、PCでは児童のタブレットと動きが若干異なる、などの課題が示されました。

教諭からは、授業支援していただけると子どもたちも喜ぶこと、思ったよりも子どもたちはプログラミングできる。楽しそうに学習していたことなど、出されました。

本日の授業では、児童17名に指導者が4名いたことでスムーズな授業ができたと思われます。まだまだ、課題は多くありますが、今後の展開に向けて大変充実した研修会となりました。



授業のねらいを確認



プログラミングする児童



マイクロビットじゃんけん



説明する橋本先生



授業後の協議